



- 特集 P1~2
ているる対談 **住まいと家族を考える**
話し手：建築士 伊志嶺 敏子さん 聞き手：77-アウガサ 崎山 律子さん
- 誌上講座 P3
経済的困窮にあえぐ母子家庭
沖縄県母子寡婦福祉連合会 法律相談担当弁護士 池宮城 紀夫さん
- \好評連載中/\ すてきなあなたにインタビュー P4
好きなことをひたすら真っ直ぐに
国立劇場おきなわ第五期組踊研修生 下地 心一郎さん
- 事業報告&講座案内 P5~P6
- ご案内：夫婦カウンセリング、賛助会員、相談室&寄付のご報告 P7

ているる

ちゃんがいく!



国立劇場おきなわでは、「組踊」の保存継承を図ると共に将来にわたり興行的かつ定期的な組踊の公演を行いうる、優れた実演家の育成を目的に組踊研修を行っています。

今回のインタビューは、第五期研修生の下地心一郎さんに組踊への思いについてお話していただきました。

組踊とは・・・せりふ、音楽、所作、舞踊によって構成される歌舞劇であり、首里王府が中国皇帝の使者である冊封使を歓待するために踊奉行に任命された玉城朝薫（1684～1734）によって創作されました。1719年、尚敬王の冊封儀礼の際に初演されました。昭和47年5月15日、沖縄が日本へ復帰すると同時に、組踊は我が国の優れた芸能の一つであるとして、能、歌舞伎、文楽などと同じく国の重要無形文化財に指定されました。（写真は10月に行われた第五期組踊研修生第一回発表会「執心鐘入」）

住まいと家族を考える



話し手：建築士 伊志嶺 敏子さん

聞き手：リアンワウサー 崎山 律子さん



住まいを通して考える

コミュニケーション

崎山 伊志嶺さんが県営平良団地で試みたチャレンジ。「自分のプライバシーが守れて、地域と結びつき、新しい関係性が出る。」ことについて、建築を通して提案していらっしゃるんですね。

伊志嶺 大事なことは表に向けて私の家ですよって示すこと。例えば、道を歩く人が、「あそこの家の方はこういうのがお好きなのね」と解るような、お花や流木、貝殻、置物などで、その家の人となりを感じ、「関心」を持つこと。これが、コミュニケーションの元だと思うのです。

団地の場合、向き合う親密さ、気配が分かる猶予、見えてはいけない遮断、そのプライバシーのグラデーションが醸し出す自己表現でもって街に参加している姿こそがコミュニケーションのポイントだと思っています。



伊志嶺さんが設計した集合住宅「私の家」

崎山 そこで会話が生まれたり、コミュニケーション、関心が生まれる。

伊志嶺 そうそう、関心が生まれる。

尊厳が守られるケアハウス

伊志嶺 デンマークの医療や介護施設等を見学に行ったことがあるんで

す。それはまあ素敵な素敵な小さなケアハウスでした。

崎山 どういう風に素敵だったんですか。

伊志嶺 古い家ですが、建築的なデザインや色使い、カーテンのデザインなどが素敵で、それでサロンがあり、そこにはきちっとドレスアップしたおばあちゃんやおじいちゃん等がフォーマルな装いで座っている。この方が認知症だって思えない。スタッフが、起きたらちゃんと身綺麗にして、みんながいるところにお連れしているんです。

崎山 尊厳が守られている。

伊志嶺 そうそう、それこそ尊厳が守られている。あまりの素晴らしさにリーダーヘスタッフの指導方法を尋ねたら、「音楽会や詩人、色々な文化的な方を招いてスピーチしてもらっています。いろいろ試みていますが、自分たちとして大事なものは、相手(入居者)に関心を寄せて欲しい。これが一番です。」とのことでした。だから今の関心という言葉はその時のことを思い出すんですよ。

風土が作る建築

崎山 県の公共的な建物、美術館、博物館、県庁舎も含め色々な建築物の空間が、少なくとも毎日見ている、元気や勇気を与えられる、愛着のある建築物(空間)であって欲しいと思うのですが。

伊志嶺 空間感覚というのは、その土地の気候風土が培ってきたものなので、その土地の人がよく感じているものにまずは従ったほうが愛着を

持てると思っています。

私は、(建築の)実務訓練を東京で受けましたが、それは本土で評価されたとしても沖縄の地域はこれを受け入れられない。「建築とは何か。」と質問を受けたときは、「その土地がかもし出す地酒みたいなものです。」と答えています。

崎山 その土地の歴史と風土の必然として、その生活でから生まれるものではないでしょうか。文化と全く同じですね。

伊志嶺 沖縄(の建物)は、(台風から)閉じて(風通りしやすく)開く、細い線よりは太い線、骨太が良い。

崎山 骨格がしっかりしている。

伊志嶺 そう骨格がしっかりしている。木造住宅でも沖縄は4寸角を使い、本土の3寸角とは違っています。沖縄の年寄りたちが本土の家を見るとマッチ箱みたいな家って言いますよね。

崎山 小さい家が並んでおり台風で大丈夫かなと、私も思いました。沖縄の場合とはとにかく台風対策で家がしっかりしています。

伊志嶺 木造からコンクリートに変わっても年寄りたちは、頑丈な良い家はコンクリートの柱の太さを自慢するのです。沖縄の場合は頑丈さ、骨太さというのが、気候風土が培ってきた美意識に繋がってくるわけです。沖縄らしい景観を石とか瓦に頼らずに沖縄スタイルを持ってやっていくことが大事です。それには、何世代にもまたがって、いろいろ試行錯誤しながら作ってきた結果という

のが伝統的な集落の中にあり、そこを原則として読み取って、それを基本にして今に蘇えらせることが大事なんじゃないか。それは、沖縄で育った人間にしか、出来ないことだと思います。

住宅問題は総合的な社会問題

崎山 弱い立場にいる人達が我慢しなくて良い社会を作るために私たち大人は何を目指し、何を考えるべきでしょうか。

伊志嶺 住宅行政こそ、基本だと思います。やたら持ち家政策を勧めてきた結果、郊外にどんどん広がり、これが高齢化し、空家になっていく。おまけに郊外に団地なんか作っちゃうから、車を持たなきゃいけないし、それが家計を圧迫し、そして街が空洞化するという悪循環を持っているので、空洞化した街のなかに小規模で良いから公営住宅団地を点在させて街の中心地の活性化をするといった、公営住宅の仕組みから考える街の活性化があると思います。

利益の共有と新しい井戸端

伊志嶺 集会室を設計したときのことですが、そこに土間空間を作って、コインランドリーをやってもらおうと思って配管配線をしました。そうすれば、団地の人たちがコインランドリーを使って、そのお金が共益費に回り、修理費が団地に住むペンキ屋さんや大工さん達の手間賃として回り、それでお金が地域通貨のように回っていく仕組みを作りたいと思いました。自治会に人が集まり結束するには、利益の共有から始まると思います。利益の共有ができるようなコインランドリーをまず作り、それをうまく利用すれば、自治会を運営できるのではないのでしょうか。その（コインランドリーを設置した）集会室で、新たな井戸端を作れば、子どもたちも寄ってきます。そのた

めに集会室に、各家家に置かれたキッチンセットよりもずっと上等なものを設置し、そこで福祉型の運営も始まれば良いと思いました。子ども食堂なんかすぐそこでできるでしょう。

継承していくこと

崎山 これからの夢や今後のお仕事の展望についてどう考えていますか。

伊志嶺 事務所の資料が山となっているので少しずつ整理を始めています。事務所を始めて40年ぐらいになりますが、いろんなことがあり、中途半端に終わっているものも沢山ありますが、ある程度、マイスタイルを確立できました。それをどういう形で次の人に引き渡せるかが課題です。いつも一から始めるようじゃ効率が悪いので、私の気づきが次の人に伝わって（ノウハウが磨かれ）、その人がまた次に伝えて（進化して）行けば、沖縄もなかなかのものになると思っています。

ひとり一人の工夫を束に

伊志嶺 それから私たちの技術的な立場からいいますと、（沖縄は）日本の一部ではありますが、北海道と沖縄では全然（気候・文化が）違います。また、東京とも違います。少数派だけど特殊性があるため、沖縄建築の研究所が必要だと思っています。沖縄には、個々の積み重ねはありますが、ひとり一人の工夫が束になっていないことで、技術の共有化がなく、ここに問題があります。それをまとめる、あるいは検証するような研究所が必要だと思っています。北海道は、歴史ある道立の（建築の）研究所があり、北海道の建築活動は素晴らしいです。

崎山 沖縄にもそれに匹敵するだけの歴史と風土と生活があるわけですから、沖縄にも（建築の研究所が）有るべきですね。

家族の役割と住宅の機能

伊志嶺 常に社会の変化に晒された歴史の為、例えば100年の間に茅葺きの家から、コンクリート造へと急激な変化を余儀なくされました。ですから家づくりについての考え方が今だに未成熟なまま、現在に至っているように思います。当然先人達は時代の中で知恵をしぼり、家づくりをしてきたと思います。そのなかに残された課題に取り組む使命が今の私達にはあると考えます。

住宅問題は、非常に総合的な社会問題だと思います。

崎山 沖縄の人たちは、過去から学び蓄積し、検証を行い、記録を残す作業が苦手だと思います。これから先は、私たちがしっかりと見つめ直し、そして関心を持ち、人が幸せになるにはどうしたら良いか思いをはせながら生きていくことが大事だと思います。



ている中庭にて

いしみね としこ

1948年、宮古島に生まれる。1970年奈良女子大学住居学科卒業。浅井設計入所。上野雄司建築設計事務所を経て、1975～1978 東京都工芸大学工学部建築学科助手。1978年～郷里・宮古島にて伊志嶺敏子一級建築士事務所開設。NPO法人萌え（高齢者福祉施設運営）理事長。2003年HOPE計画20周年記念特別表彰HOPE賞（市営馬場団地、県営平良団地）、2011年地域住宅計画奨励賞（かたあきの里）受賞。

経済的困窮にあえぐ母子家庭

沖縄県母子寡婦福祉連合会 法律相談担当 弁護士 池宮城 紀夫



私は、30年余、沖縄県母子寡婦福祉連合会の母子センターで月2回の無料法律相談を担当してきました。30年という時の流れの中で、母子家庭を取りまく社会的、経済的環境がより良く改善されてきたのかどうか、私の相談事例を通して実感を述べてみたいと思います。

1 平成8年の相談事例

相談者 30歳の女性

東京で働いている時に本土の彼と知り合い交際するようになり、結婚し、長男（相談時3才）二男（相談時1才）をさずかり、幸せな家庭生活をしていました。ところが、夫が沖縄の生活環境になじむことが出来ず、妻に当たり散らすようになり、子どもたちも父親におびえる生活を繰り返していました。相談者は、これ以上耐えることが出来ず、子供らと共に実家に逃げ帰り、やっとの思いで家庭裁判所で調停離婚し、2人の子の養育費月額5万円を支払う調停が成立しました。

ところが、家裁で決まった養育費を5回だけ支払い、その後支払いがないので、私の定例相談日に駆け込んできたのです。

家裁で決まった養育費を支払わない場合には、給与差押えの手続ができるのですが、別れた相手方が本土へ逃げたしまい、所在不明、就職先も不明、そうなる給与差押え手続も出来ません。このような事例は決して例外な事例ではなかったのです。

2 今年（平成29年）の事例

相談者 48歳の女性

国家公務員と結婚、小学6年生と5年生の子2人。夫の暴力に耐えかねて平成23年に離婚し、相談者はパートで働いてきましたが、手取り月額10万円前後の収入です。別れた夫は、子2人分の養育費として月額3万円を支払っていますが、これでは2人の子供を抱えてとても生活が出来ないと、相談に駆け込んできたのです。

別れた夫は国家公務員ですので、給与は40万円は下らないと言えますので、2人の子への月3万円の養育費はあまりに少なすぎるので、家裁へ養育費の増額請求の調停を申し立てるよう助言しました。

借金してでも、子の幸せのために愛情を注ぐのが父親ではないのか！とつい怒りが込みあげてくる相談の日々です。

3 相談事例から見えてくる

沖縄の現実

離婚率全国1位 子どもの貧困率29・9%全国1位 まったく有り難くない全国1位です。

なぜ離婚が多いのか？ 私の相談者は、離婚した女性か、離婚に追い込まれた女性たちですが、離婚の原因は、出来婚による早婚、家計の設計の無いままの結婚、夫の暴力、夫のパチンコ、スロットマシンの賭博などが、30年前の相談と現在の相談内容に変わりがありません。30年前とちっとも変わらず、経済的安定した収入も無いままに、離

婚を強要され、子の養育を一手に引き受けさせられて、「死んでしまいたい！」と一瞬思い詰めても、最愛の子らの笑顔を生きる支えにして、歯を食い縛って頑張っている母子家庭、これが沖縄の現実です。

4 貧困の連鎖を断ち切ること

金持ちは金持ち、貧困は貧困、親から子へ連鎖していく、厳しい現実です。しかし、それをやむを得ない現実だと容認すると、沖縄のみならず、日本そのものが格差の極限に至り、爆発してしまうことになるでしょう。そうならない前に県民挙げて貧困格差の解消のために、共助の社会の構築に手を取り合って行くべきかと思うこの頃です。



いけみやぎ としお

1939年生まれ

1996年 中央大学法学部卒業

1971年 弁護士登録

1982年以来現在まで嘉手納基地爆音差止訴訟弁護団長

・辺野古新基地建設反対運動弁護団の一人

他方30年余沖縄県母子センターで無料法律相談を担当しています。

私には、180人の孫ちゃん達がありますよ！？（さくら保育園の理事長もしているんデス・・・）

好きなことをひたすら真っ直ぐに

国立劇場おきなわ第五期組踊研修生 下地 心一郎さん



組踊との出会い

宮古島の出身で、沖縄県立芸術大学（芸大）で琉球芸能を専攻しています。琉舞（琉球舞踊）を5歳のときに2歳年上の姉の影響で始めました。小さいころより多くの習いごとをしていたのですが、とりわけ琉舞は一生懸命に取り組みました。踊っているのが楽しくて、そのころから舞踊中心の生活を送っています。

高校2年のとき、自分が所属している道場の発表会で「万歳敵討」（まんざいてきうち）に出演したのが、組踊との出会いです。その時に、組踊は思い入れとか感情をあまり出さないのですが、例えばちょっと首をかしげたりする所作で感情表現ができるのが組踊なのかと感じました。舞踊とは違う、組踊の魅力に目覚めた瞬間です。

演じること（立方（たちかた））への挑戦

組踊研修生への応募は、第1期組踊研修生の川満香多さんをはじめ多くの先輩方がここでの研修後、様々な舞台で活躍されていて、その姿に憧れを抱きました。研修では、人間国宝をはじめとする先生方が実際に演じながら指導して下さいます。所作の一つひとつ、それができるようになったらどのような感情で表現するのか、そして唱え（セリフ）。内容は難しいのですが、今までは観てる側でわからなかったところなど、実際に指導を受けて、このように表現するのかと気づいたことがたくさんあります。

10月に初めての研修発表会がありました。演目は「執心鐘入」（しゅうしん

かねいり）で、小僧1を演じました。あんなに広い舞台（国立劇場おきなわの大劇場）で演じられるのかと思うととても緊張しましたが、宮城能鳳（人間国宝）先生に唱えも安定していたし、演技も良かったよと褒められたのがうれしかったです。



小僧1を演じている下地さん（真ん中）

次回3月に行われる発表会の演目は「二童敵討（にどうてきうち）」なのですが、阿麻和利（あまわり）の役に挑戦したいと思っています。冒頭に長い刀と団扇（だんせん）を持って演じる「七目付（ななみじち）」という所作があり、阿麻和利の力を見せつける迫力あるシーンです。ここが決まったら本当にかっこいい！



七目付の所作を見せてくれました。

半年が過ぎて、苦手で課題だと感じているのは発声です。研修にはボイストレーニングもあるのでしっかりとやっていこうと思っています。

立方、地謡で織りなす舞台

役者である立方の唱えもありますが、

基本的に感情は音楽を奏でる地謡（じうてい）が表現します。揺れ動く感情を歌詞にのせて歌います。例えば、「二童敵討」で二童と母の別れのシーンでは、立方はこれからあだ討ちに行きますという唱えの後はずっと黙っていますが、母と別れる悲しみや辛さを地謡が歌う「仲村渠節（なかんかりぶし）」で聞かせます。立方は佇まいから寂しさを伝えます。組踊は立方と地謡が息を合わせて作り上げていきます。難しいと感じますが、おもしろいところでもあります。

家族の理解が支えに

芸大や研修生として最高に恵まれた環境で学びたいことを学んでいることに感謝しています。きついなと思うこともあります。苦ではないです。家族の応援が力になっていると感じています。研修生への応募の際も「挑戦してみたら」と協力的だったことがとても励みになりました。将来はずっと芸能を続けていきたい、続けられたらいいなと思っています。国立劇場おきなわのような大きな舞台で、多くの観客のみなさまに観て頂ける一人前の立方になれるようこれからもがんばっていきます。

しもじ しんいちろう

宮古島市出身。5歳の頃より、琉球舞踊を亀浜律子氏に師事。沖縄タイムス伝統芸能選考会舞踊部門最高賞受賞。H29年4月より国立劇場おきなわ第五期組踊研修生。沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻。



★事業報告★

【健康講座】親子で学ぶ性教育～心とからだを大切にするために～

実施日：10/14（土）講師：徳永桂子さん（思春期保健相談士）

内容：子ども向け、おとな向けの二部構成で実施。子ども向けでは、からだの名称が出てくるゲームをきっかけに興味を引き出し、性器の正式名称や内性器、外性器は男女ともに同じところから発達したこと等を科学的に教えました。おとな向けでは、自分のからだについて科学的に学ぶことは、全ての子どもに保障される権利であり、子どもを性被害や性感染症から守るには小さい頃から性教育が重要であり、親子の関係を小さい時に作っておくことが大切であると伝えました。

【健康教室】カラダの変化に負けない！～骨盤を整えて、骨盤底筋を鍛える～

実施日：10/17（火）、24（火）、31（火）

講師：松浦有梨さん（全米ヨガアライアンス認定インストラクター）
田仲奈穂さん（看護師・助産師）



【スマートフォン・タブレット教室】シニアによるシニアのためのスマホ教室

実施日：11/2（木）、7（火）、9（木）

講師：房前三男さん（那覇市シルバー人材センター）



【法律講座】どう向き合う？「離婚」～その時あなたはどうする？～

実施日：11/16（木）講師：林千賀子さん（ゆい法律事務所弁護士）

内容：「離婚」が頭に浮かんだり、告げられた時には、現実に別れたいのかを考え、準備することとして、例えば不貞やDVの場合は証拠や資料を集めたり、経済状況（財産・加入保険・株・通帳・借金、ローン：連帯保証人）を確認する必要性を説明しました。また、別居する場合の婚姻費用、養育費、親権、面会交流など決めることなど、「子の福祉」を優先して考え、行政機関や専門家に相談するも大切だと伝えました。

【ワークライフバランス講座】介護のある暮らしと働き方～介護で仕事をあきらめない～ 実施日：11/25（土）

講師：津止正敏さん（立命館大学産業社会学部現代社会学科教授/男性護者と支援者の全国ネットワーク事務局長）



内容：「家族責任」「男らしさ」といった社会規範のため孤立したり、「介護虐待」加害者となる比率が高い『男性介護者』への支援の必要性や現代の介護の実態。介護のある暮らしはその経験を通してより深い人生を送れるようになるのではないかと伝えました。

【男女共同参画講座】子育て世代の賢い生活～ライフプランニングを学ぶ～

実施日：12/9（土）講師：名城佳枝さん（ファイナンシャルプランナー）

内容：講座の冒頭にグループで、レシートの重要性を知る「レシートプロファイリング」ワークショップを行いました。レシートを振り返り、不要な物に×印をつけるだけでも節約の1つと紹介。支出を把握し、年間や月の予算を決め、続けていけるだけの貯蓄額を先に入れるよう伝えました。

【相談員研修】後悔しないための国際結婚と離婚、ハーグ条約とDV 実施日：10/19（木）

講師：鎌田晋さん（真喜屋法律事務所弁護士）、前小屋千絵さん（外務省領事局ハーグ条約室）



前小屋千絵さん

【相談員研修】MI（動機づけ面接）入門～人が行動を変えるとき～ 実施日：12/21（木）

講師：小松知己さん（沖縄協同病院リエゾンセンター（心療科）部長代行 精神保健指定医 精神科専門医・指導医 精神科リエゾン専門医・指導医）

女性のための総合相談inているる 実施日：11/18（土）

内容：問題を抱えた女性たちが解決にむけた一歩を踏みだすことができないのは、問題が多岐にわたっているからです。法律がらみ、生活、子どもいづれも重い問題で、こころの健康も損なってしまいます。このような様々な相談を連携して行う「総合相談」を女性に対する暴力をなくす運動（11月12日～25日）期間中に実施しました。



★講座案内★ 事前申込（Tel 098-868-3717）

【コミュニケーション講座】ワークショップで体験！パートナーとの関係を変える

【日時】2/10（土）10：00～12：00【場所】ているる1階「ふれあいサロン」【定員】25名（定員に達し次第締切）

【講師】浅野恵美子さん（カウンセラー）【受講料】1000円（賛助会員800円）

【対象】関心のある方ならどなたでも（ご夫婦、パートナー、お一人でも参加できます）

【女性起業塾】無理なく楽しく「ワークライフミックス」☆オケマリ先生の手帳活用術☆（仮）

【日時】2/20（火）18：30～20：30【場所】ているる2階「会議室」【定員】40名（定員に達し次第締切）

【講師】桶下眞理さん（手帳オーガナイザー・ビジネス手帳専門家・起業家）【受講料】無料

【対象】起業を目指している、あるいは起業している女性、時間を効率的に使いたい女性、関心のある方



★事業報告★

楽しく歌おう！童謡・唱歌講座 実施日：10/11（水）、11/8（水）、12/13（水）

講師：福井貞幸さん（那覇市内の公民館などで童謡・唱歌指導）

内容：歌集の中から聞いたことのない曲「谷間の灯」「朝」や「思い出」「牧場の朝」「追憶」「里の秋」「手のひらを太陽に」など、秋に関する歌を歌いました。



レモンガラスの液体せっけん作り教室 実施日：11/7（火）

講師：諏訪咲希さん、赤嶺ちとせさん（岸本ファーム）

内容：レモンガラスの歴史、主な成分、心、体、肌への効能や効果や活用方法や鉢植えする際の管理の方法も解説。講師の指導のもと、液体せっけん作りを実習体験。さらに手浴の体験も行いました。



食でエイジングケア料理教室 実施日：5/30（火）、10/24（火）、11/21（火）

講師：加藤初美さん（管理栄養士、（株）玄米酵素が運営する自然食料理教室の指導講師）

内容：季節の変わり目は体温調節が難しく、病気にかかりやすくなるので、日本のように春夏秋冬がある国ではその季節に応じた体調管理の必要があると話し、美容の大敵「糖化」した物質（エイジス）を防ぐためには、果物、甘い菓子等の糖の吸収が早い食品は控えるなど体の中からキレイに健康になる食事法を解説しました。



シェフの教室 実施日：12/1（金） 講師：浜川広昭さん（かりゆしホテルズ総料理長）

内容：プロならではの技やコツや盛り付けテクニックなど、家庭でも気軽に再現できる料理を実演しながら説明しました。メニューはローストチキン、沖縄県魚のマリネカルパッチョ風サラダ仕立て。ホテルからスープとパンの差し入れがありました。



おすすめ! ★講座案内★

チョークアート講座 事前申込（Tel 098-866-9090）

【日時】平成30年2月8日・15日・22日（全3回）18：00～20：00

【場所】ているる3階「創作室」 【受講料】1回 2,800円（単発受講可） 【定員】15名（定員に達し次第締切）

【講師】佐藤由樹子さん（チョークアートゆらり沖縄代表）

【内容】色と色が混ぜられるように特別に改良した特殊なチョークを使い、フルーツ、ケーキ、ドリンクを描く。

★ているるフェスタ2017 スイーツお茶会deうたいま唱歌！

日本人のこころのふるさと、童謡・唱歌。

ているる講座「楽しく歌おう！童謡・唱歌」においても、50代から70代の方々に参加し、生きがい、生涯学習の場として賑わっています。ているるフェスタ2017では、フリーアナウンサーのいらみなぜんさんを語りべに迎え、世代を超えて愛され歌い継がれる定番曲をみんなで合唱します。またバレンタインにちなみ、スイーツの提供。歌にスイーツ、ゆったりとお楽しみいただけます。

【日時】2018年2月14日（水）開演14:30（開場14:00）

【場所】男女共同参画センターているる・ホール

【料金】前売り1500円／当日2000円（80曲入り歌集別途販売）

【チケット販売所】ているる窓口

【出演】いらみなぜんこ（語りべ）、福井貞幸（ピアノ）



いらみなぜんさん



ピアノ
福井貞幸さん

★平成29年度ているる祭

ているるを利用しているサークル又は団体およびふれあいサロン登録団体の日頃の活動の成果を発表します。

また、ステージ部門やエントランス出店の一般公募も行っています。詳細はているる窓口Tel 098-866-9090まで

【日時】平成30年3月17日（土）10:00～17:00 【場所】ているる1階ホールおよびエントランス

【内容】ホールの部（舞台部門）：舞踊（琉球舞踊、日本舞踊、洋舞等）、合奏、歌、三味線など

エントランスの部（展示部門）：フラワーアレンジメント、洋裁、書道、マルシェ（販売）など

夫婦カウンセリングのご案内

子どものこと、家計のこと、ささいなことなのに…。会話はなくなり、笑顔が消え、心はすれ違っていく。どうにかしたい。どうすればより良い関係になれるのか。夫婦の関係を見つめなおすきっかけに専門家による「夫婦カウンセリング」受けてみませんか？ おふたりでお越しください。

<夫婦カウンセリング>

- カウンセリング：第2、第4金曜 10：00～12：00 ※2018年（平成30年）1月12日（金）始まります
- 予約受付：2017年（平成29年）12月より 火曜～金曜 10：00～16：00
- 予約電話：098-868-4010（ているる相談室）
- カウンセリング料：1回5000円



賛助会員入会・継続のご案内

当財団の活動に賛同し、一緒に歩んでくださるみなさまのご入会をお待ちしております。頂いた会費は各種事業などに活用させていただきます。

- 特典：情報誌「ているるちゃんがいく！」や講演会・講座情報などを文書にてお知らせいたします。講演会や講座等へ優先的に参加、当財団が主催する有料講座は会員価格で受講できます。
- 年会費：個人会員：3,000円 学生会員：2,000円 団体会員：10,000円

（公財）おきなわ女性財団（098-868-3717）までお問合せください。

ているる相談室

あなたが抱えるさまざまな悩みや問題についての相談をお受けします。あなた自身が解決に向けた一歩を踏み出せるように共に考えます。

女性相談：098-868-4010

女性の相談員がお受けします。電話での相談と面接相談があります。専門家による特別相談もあります。

★一般相談

- ・電話相談：火曜～土曜 10：00～20：00
- ・面接相談：要予約
- ・国際相談：要予約（月1回）※外国人との結婚・離婚等

★特別相談 要予約、各々月1～2回

- ・法律相談：女性問題に詳しい弁護士が対応
- ・国際法律相談：国際結婚・離婚をはじめとする国際法に詳しい外国法事務弁護士が対応
- ・こころの健康相談：女性問題に詳しい医師が対応

※お休み：日曜と月曜、年末年始（12/29～1/3）

男性相談：098-868-4011

男性からの相談を男性の相談員がお受けします。電話での相談のみです。

★一般相談

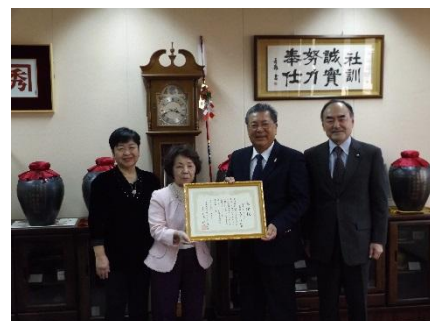
- ・電話相談：日曜と月曜 10：00～16：00

※お休み：祝日の月曜、年末年始（12/29～1/3）

相談は無料（通話料は相談者負担）、
秘密（プライバシー）は厳守します。

（公財）おきなわ女性財団への寄付のご報告

「金秀グループ創業70周年記念チャリティーゴルフ大会」の収益金から寄付がありました。12月13日に金秀グループ本社へ赴き、感謝状を贈呈いたしました。頂いた寄附金は、当財団の公益事業のために大切に使用させていただきます。「沖縄県女性の翼の会」及び個人の方からも寄付をいただきました。“ありがとうございます”



沖縄県男女共同参画センター「ているる」
900-0036 沖縄県那覇市西3-11-1

公益財団法人おきなわ女性財団
TEL：098-868-3717 Fax：098-863-8662
H P：http://www.okinawajosei.org/

沖縄県男女共同参画センター管理運営団体
TEL：098-866-9090 Fax：098-866-9088
H P：http://www.tiruru.or.jp/